

Security & Programming Camp 2010

参加無料
交通費・宿泊費を含め、無料です。

セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 応募要領

高度IT人材の早期発掘と育成に向けて、若年層のセキュリティ意識の向上、オープンソースやプログラミングについての理解、そして優れたセキュリティ・プログラミング人材の発掘と育成を行うべく、合宿形式で情報セキュリティやプログラミングについて学ぶ「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」を開催します。情報セキュリティやプログラミングについて、真剣にかつ本格的に学びたいという意欲を持った**22歳以下の学生・生徒の参加を広く募集します。**

<http://www.ipa.go.jp/jinzai/renkei/spcamp2010/index.html>

主催／独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)
 共催／経済産業省
 後援 (調整中)／文部科学省 財団法人日本情報処理開発協会 特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会

11. 「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」の主な内容

◎セキュリティコース

- 講義中の演習は基本的にグループで行います。
- 講義は、両コースの参加者全員が受講する「基本科目」、およびセキュリティコースの組ごとに特化された「組別専門科目」を設定しています。参加者は、基本科目の受講した後に、組別専門科目を受講していただきます。
- セキュリティコース全員が参加する応用演習があり、グループで課題に取り組んでいただきます。
- キャンプ期間中は、講義や演習以外に様々なイベントを企画しています。
- セキュリティの実際の現場を体感できる企業見学会を行う予定です。
- 最終日に各組で学習したことや、応用演習で学んだことなどを発表していただきます。

◎プログラミングコース

- 講義中の演習は基本的にグループで行います。
- 実際にプログラミングを自分で行うことを中心とした講義と演習を行います。
- オープンソースという視点から、自分の作成したプログラムを配布するためのノウハウを学びます。
- 両コースの参加者全員が受講する「基本科目」と、プログラミングコース参加者全員が受講する「組共通専門科目」、および参加者の興味に応じて応募時に組選択できる「組別専門科目」を設定しており、組共通専門科目を受講した後に、組別の専門科目を受講していただきます。組別専門科目には、OSを作ろう組(OS自作組)、プログラミング言語組(言語組)、Linuxカーネル組(Linux組)があり、応募時に受講したい組を選択していただきます。なお、各組には参加者に求めるスキルの目安が設定されていますので、ホームページ上の講義概要に記載された各組の内容をよくお読みになってから組選択をしてください。
- キャンプ期間中は、講義と演習だけでなく、業界の最先端で活躍されている識者の方の講義および、セキュリティコース参加者と合同の交流会などのイベントも実施します。
- 組別専門科目ごとにグループ演習を行い、その結果を最終日に発表していただきます。

■セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 講義科目概要

セキュリティコース 講義科目概要	プログラミングコース 講義科目概要
基本科目 (必修) : 情報セキュリティ基礎 : プログラミング入門	基本科目 (必修) : 脆弱性はなぜ作り込まれてしまうのか、ウイルス感染の最新トレンド、ネット詐欺の手法と対策 など : デバッグの方法論、勉強会について など
組別専門科目 (応募時に選択) : ●ソフトウェアセキュリティ組 この組では、ソフトウェアに含まれる脆弱性を通して、ソフトウェア全般のセキュリティについて学びます。また、脆弱性を悪用した攻撃の原理、および防御・解析手法について学習し、自らでそれらの脆弱性を認識・発見できるレベルを目指します。 ●Webセキュリティ組 この組では、Webアプリケーションのセキュリティについて、脆弱性の事例を元に、脆弱性を実際に調査や解析すると共に、発見した脆弱性の適切な取り扱い方も学びます。これらを学習し、脆弱性を自ら発見できるレベルを目指します。 ●ネットワークセキュリティ組 この組では、現在のコンピュータネットワークにおけるセキュリティや弱点などについて学びます。ネットワーク攻撃のメカニズムを理解し、実際のネットワークにおける攻撃の検知や、適切な防御策を講じられるレベルを目指します。 応用演習 : グループごとに分かれ、ネットワーク、ソフトウェア、Webアプリケーションの他、フォレンジックなどの分野から出題される謎を解明します。解いた謎のレベルに応じて得点が与えられ、得点をグループごとに競い合います。	組共通専門科目 (必修) : ・ソースコードの読み方 ・オープンソースソフトウェアの触り方 ・コミュニティの歩き方 ・デバッグの方法など 組別専門科目 (応募時に選択) : ●OSを作ろう組(OS自作組) この組では、書籍「30日でできる! OS自作入門」を教科書として使用し、実習中心の講義を通じて、ひとりひとりにオリジナルのOSを作ってもらいます。それらの学習を通じて、OSの仕組みや、ハードウェア・OS・アプリケーションの関係が理解できるレベルを目指します。 ●プログラミング言語組(言語組) 言語組では、プログラミング言語Ruby、およびその言語処理系を題材に、座学と実習によって言語処理系の基本、ソフトウェア構成手法の基本、性能改善手法の基本を学び、Ruby開発コミュニティで活躍できるレベルを目指します。 ●Linuxカーネル組(Linux組) この組では、Linuxを題材に、実用的なコンピュータシステムのアーキテクチャについて学びます。特に、Linuxカーネルのコンパイルからコードの歩き方、デバッグ、コミュニティとの関わり方までの講義と実習を通じて、実際にコミュニティに参加できるレベルを目指します。

(注)「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」で演習に使用するネットワークはキャンプ専用の閉じたネットワークで、一般のネットワークとは隔離されたものです。

☆キャンプにおける実施内容については予告なく変更することがあります。なお、最新の講義科目の詳細については、セキュリティ&プログラミングキャンプ2010ホームページに順次掲載いたしますので、ご参照ください。

☆応募する組によっては、各組の参加者に求めるスキルの目安が設定されています。詳細はセキュリティ&プログラミングキャンプ2010ホームページの講義概要に掲載してありますので、そちらを参照の上、ご応募ください。

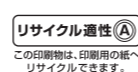
12. その他

- ・参加が決定された方には、「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」実施規程を遵守する旨の誓約書を提出していただきます。
- ・基本的には参加者の付き添いは認めません。ただし、特別な事情により付き添いが必要な場合は事務局までご相談ください。
- ・キャンプ参加者は、キャンプ前に自身の体調についての報告書を事務局に必ず提出していただきます。また、キャンプ実施にあたっては、参加者の健康管理に十分に注意を払いますが、万が体調を崩した場合には、主催者の判断により、途中でキャンプを退去していただくなどの措置をとらせていただきます。
- ・キャンプ期間中には、マスコミ各社による取材活動が行われることがあります。また、取材された結果が氏名・学校・顔写真を含んだ受講時の様子を含めて各メディアに掲載されることがありますので、キャンプに応募される方はその旨事前にご了承ください。
- ・キャンプ開催後には、主催者ホームページにて「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」の開催報告をいたしますので、参加者が写っている画像を掲載させていただきます。キャンプに応募される方はその旨事前にご了承ください。
- ・キャンプの講義の様子は、キャンプ事業の広報活動や技術啓蒙を目的として撮影、録音し、その内容を公開する場合があります。
- ・本キャンプ実施の成果をはかることを目的として、キャンプ参加後、本キャンプ参加者については参加者アンケートの提出を含めて、定期的にその後の活動状況についてフォローアップ調査(参加者は回答必須)させていただきます。参加を希望される方はその旨事前にご了承ください。
- ・キャンプ期間中は、未成年者の参加が多く見込まれることから、成人の参加者の飲酒および指定場所以外での喫煙を禁止します。

【個人情報の取り扱いについて】

主催者および事務局が、「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」の実施・運営に際して取得した個人情報は、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) の個人情報保護に関する基本方針に基づいて、適正に取り扱いを行います。取得した個人情報は、「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」の運営においてのみ使用し、その他の第三者に提供することはありません。(個人情報保護に関する基本方針 <http://www.ipa.go.jp/about/privacypolicy/index.html>)

以上の内容をご承諾いただいた上で、参加申込みしてください。



1. 開催目的

2004年度より開催している「セキュリティキャンプ(2008年度よりセキュリティ&プログラミングキャンプとして実施)」は次世代を担う優れた若年層が、ITに関する高度な技術を合宿形式で学ぶことができる有益なイベントとして認知されつつあります。IPAでは、初等中等教育過程を含む優れた若年層が情報セキュリティやプログラミングに関する高度な知識および技術を習得する機会を通じて、技術面のみならずモラル面、セキュリティ意識、自立的な学習意識、職業意識等の向上を目的に、今年も「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」を開催します。「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」では、本キャンプの卒業生を含めた学生がチューターとして参加し、カリキュラムの進捗をサポートしたり、グループディスカッションを通じて交流する機会がありますので、参加者は先輩の活躍に触れ、目標とする進路を意識するきっかけとなります。本キャンプは、セキュリティコースとプログラミングコースで構成され、同一の日程および会場で開催します。本キャンプの概要は次のとおりです。

◎セキュリティコース 目的

高度なIT人材を発掘と育成する場の一つとして、情報セキュリティを中心としたITについての意識が高く、将来的に優秀なIT人材として期待されるIT技術者候補に対して、情報セキュリティを中心としてIT化実現のための技術的な目標と高い技術習得への励み、および安全かつ信頼性の高いIT化の進展について正しい知識を与えることを目的とします。セキュリティコースでは、ソフトウェアに含まれる脆弱性を通してソフトウェア全般のセキュリティについて学ぶ組、Webアプリケーションの脆弱性の実例を元に実際に調査、解析を行うとともに、発見した脆弱性の適切な取り扱い方を学ぶ組、現在のコンピュータネットワークにおけるセキュリティや弱点について学ぶ組に分かれて学習します。組別受講終了後には、課題を解いて得点をグループごとに競い合う応用演習を行います。さらに、セキュリティ業界人、法曹関係者および学者などセキュリティに関する識者の講義や交流会、実際の業務の現場を学ぶ企業見学会を実施し、高度な知識と共に法遵守の精神の啓発を行い、セキュリティ業務の社会における位置付けを学びます。

◎プログラミングコース 目的

高度なIT人材を発掘と育成する場の一つとして、高度なソフトウェアを設計・開発できる『可能性』がある若い人材を早期に発掘し、その可能性を現実のものに近づけていくために、プログラミングの楽しさやソフトウェアを開発して広く活用してもらうことの喜びを理解すること、および安全かつ信頼性の高いIT化の進展について正しい知識を与えることを目的とします。具体的には、オープンソースソフトウェアとの付き合い方やプログラミング言語の正しい理解、基盤システムを作ることの楽しさ、コーディーディングやデバッグの正しい方法、オペレーティングシステムやソフトウェアを作るためのソフトウェアについての理解を深めてもらうため、演習を中心とした講義を行います。さらに、プログラミング分野の識者の講義や交流会などを実施し、高度な知識と共に社会におけるソフトウェア開発の重要な位置付けを学びます。

2つのコースを同時に開催することで、双方の参加者、講師陣、関係者が交流し、近い将来、本キャンプ参加者のコミュニティから情報セキュリティとプログラミングに関して優れた人材の輩出および本キャンプを中心とした人的ネットワークの構築が図られ、各地で自律的な活動へと定着することを目指します。

2. 募集の内容

4泊5日の合宿形式で行う、情報セキュリティおよびプログラミングの知識と技術を学ぶキャンプです。セキュリティコースとプログラミングコースがあり、どちらかのコースに設置されている組へ参加できます(両コース及びコース内の複数の組に応募・参加することは不可)。キャンプにかかる費用(自宅と会場間の交通費(実費支給。ただし経路、利用路線については主催者側が指定させていただきます)、宿泊費、食事代(3食)、講義代、テキスト代、機器/施設使用料など)はすべて主催者側で負担するので、参加者は無料で参加することができます。なお、応募は必ず1名で本人が行ってください。保護者の引率は必要ありませんが、特別な事情により付き添いが必要な場合は事務局までご相談ください。(但し、20歳未満の方は保護者の同意書が別途必要になります)。

3. 日時と場所

開催日：2010年8月12日(木)～8月16日(月)4泊5日

開催場所：未定(首都圏での開催を予定)

決定次第、「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」ホームページにてお知らせいたします。

4. 参加資格

日本国内に居住する、**2011年3月31日時点において22歳以下の学生・生徒**。

☆本事業の対象は就業前の教育段階における若者です。職業をお持ちの方はご参加いただけません。また、18歳以下の若い学生・生徒の方々の積極的な参加を歓迎いたします。

☆参加が決定した際には、ご本人確認のため、証明する書類(学生証など)の写しを必ず提出していただきます。

☆参加資格についてご不明な点があれば、事務局までお問合せください。

以下を参加の条件といたします。

- 個人で自宅と会場の往復ができること。
- 団体生活のルールを守り、他の参加者と協調して参加できること。
- セキュリティ&プログラミングキャンプ2010の全日程を通して参加できること(一部講義科目のみの参加はできません)。
- セキュリティまたはプログラミングに関して、講習を受けられるだけの基礎知識、および積極的に取り組む姿勢を持っていること。
- 別途定める「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」実施規程を遵守できること。
- 応募時点で20歳未満の方は、参加について保護者の同意を得られること(参加決定時に保護者の同意書を提出していただきます)。

(注)過去のセキュリティキャンプ(2004～2007)、セキュリティ&プログラミングキャンプ(2008～2009)に参加された方は、応募をご遠慮ください。

5. 応募方法

参加希望の方は、自分が参加希望するいずれかのコース内に設けられている組の応募用紙に、氏名、性別、住所、生年月日および年齢、所属先(学校、学科、学年)、連絡がつく電話番号、連絡がつくE-mailアドレス(確実に連絡がつくアドレスを書いてください。主要な連絡はE-mailでのみ行う予定です)、応募用紙にある質問事項について記入し、事務局まで、E-mail(添付ファイル)にて(FAX、郵送でも可)送付してください。(「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」のホームページに記入例があります)

なお、**参加者は実行委員会による厳正な書類審査により決定させていただきます。**

☆同一人物が、両コースに応募された場合には無効とさせていただきます。必ずどちらかのコースを選択して応募してください。

☆同一人物が、複数の組に応募された場合には無効とさせていただきます。必ずいずれか1つの組を選択して応募してください。

☆応募用紙の記入事項、質問事項に不備があった場合には、受領されない場合がありますので注意してください。

☆E-mailで応募される場合には、必ずメールのタイトルを以下のとおりコース別**(組別)**に明記して、**7.に記載した各コース**の応募専用アドレス宛に送信してください。

- セキュリティコース申込：「キャンプ2010 セキュリティコース(***組)参加申込」(受講を希望する組名を明記)
- プログラミングコース申込：「キャンプ2010 プログラミングコース(***組)参加申込」(受講を希望する組名を明記)

☆応募された方には、事務局より「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 応募用紙受領」というタイトルの確認メールを送信します。**応募用紙送付後、2日間経過しても確認メールが届かない場合には、応募用紙が受領されていない場合がありますので、事務局まで必ずお問い合わせください。**

6. 募集人数

セキュリティコース、プログラミングコース合わせて約60名

7. 応募用紙送付先および問い合わせ先

独立行政法人 情報処理推進機構 産学連携推進センター内「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010事務局」宛

住所：〒114-0032 文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス15F

TEL：03-5978-7536 (平日10：00-18：00) / FAX：03-5978-7516

セキュリティコース応募専用 E-mail：sec-camp-entry@ipa.go.jp

プログラミングコース応募専用 E-mail：prog-camp-entry@ipa.go.jp

問い合わせ専用 E-mail：spcamp2010@ipa.go.jp

URL：http://www.ipa.go.jp/jinzai/renkei/spcamp2010/index.html (応募用紙はホームページからダウンロードできます)

8. 応募締切

2010年7月5日(月) 17:00 必着(メール、FAXについても**同日同時刻まで**に到着したものを有効とします)

☆毎年最終日に応募が集中し、受領確認メールの送信が遅れることがあります。早めにご応募いただきますようお願いいたします。

☆**応募された全員には、事務局より「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 応募用紙受領」というタイトルの確認メールを送信します。応募用紙送付後、2日間経過しても確認メールが届かない場合には、事務局まで必ずお問い合わせください。お問い合わせがない場合には応募用紙が事務局で受領されていない場合がありますのでご注意ください。**

9. 参加決定のお知らせ

講師および実行委員による実行委員会の厳正な審査の上、**2010年7月9日(金)**までに応募された方全員に書類審査結果を**メール**にて連絡いたします。

10. 講師および実行委員

講師は、実行委員会により選ばれたセキュリティおよびプログラミングの世界で活躍する最先端の有識者が担当します。また、ITの分野で活躍されている有識者・法曹関係者の方々による特別講義も予定しております。


講師から一言：

セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 セキュリティコース講師(主査) 園田 道夫(サイバー大学)

情報セキュリティの分野は、間口が広く奥が深い、と言われていいます。そして残念ながらその広さも深さも満たしていないのが現状です。セキュリティキャンプで求めているのは、その広さや深さを埋めていただく人材であることは確かなのですが、それ以上に、いっそのことその間口を狭くしてしまう、あるいは奥の深さを浅くしてしまうような、思い切った発想、独自のアイデア、技術、スキル、そういうものを編み出していたくれるような人材です。既成概念を壊すのは若者の役目であり特権です。業界のこちこち感、閉塞感を打破してくれるような人材を熱烈に求めています。

…と書くと、やたらとハードルが高いように思えますが(笑)、要するに「情報セキュリティに関心がある」「突飛なことを考える」「それを実現する熱意がある」「とにかくやってみる」という人に来ていただきたいですね。実際この「やってみる」ということを実践できる場としては、キャンプは最適だと講師事務局一同自負してます。

その場で思いっきり「踊ってみよう」という方をお待ちしています。



セキュリティ&プログラミングキャンプ2010 プログラミングコース講師(主査) 吉岡 弘隆(楽天株式会社)

・オープンソースソフトウェアを開発する元気のいい若手プログラマを輩出したい。

・単にプログラミングテクニクが凄いというだけではなく、コミュニティのリーダとして、人々の話をよく聞き(コミュニケーション能力)、信頼されるようなプログラマを輩出したい。

・彼等が今後の核になってさらに新しい人材を発見発掘するというエコシステムを作りたい。

・彼等が新しい価値を創造し、世界から尊敬されるような人々になって、日本という地域が、そのような人々が集まるような場所にしたい。

10年で200人。

これが、わたしのユメです。

そのような若者を雇用するビジネスを作るのが大人の役目であります。

「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」は、セキュリティ&プログラミングキャンプ実行委員会によって運営されております。講師および実行委員の詳細は、「セキュリティ&プログラミングキャンプ2010」のホームページをご覧ください。